

# 和賛地蔵

「地蔵和賛」は、空也上人によって書かれたとされ、その内容は、幼くして死んだ子供が冥土にある寶の河原で父母を慕って石を積んで塔を作っていると鬼が来て持っている鉄棒でこれを崩すので、そこで地蔵菩薩が来て鬼を追い払い子供を救うという話である。図の「和賛地蔵」石仏には、恐ろしさのあまりに片手で目を覆う幼子、鬼に向かって許しを乞う幼子や地蔵にすがりつく幼子、宝珠を持って抱かれる幼子の姿などが描かれている。

〔左側面〕

草加宿石工神流齋

青木宗義作



所在地 越谷市蒲生本町の清蔵院  
 石塔型式 舟型（北東向き・高さは高）  
 造立年号 江戸時代（天保年間と推定）  
 作者 草加宿石工の青木宗義

※西方の大聖寺境内にある天保十年（一八三九）の  
 庚申塔も青木宗義の作品である。